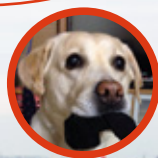


なっぴ

6月号
vol. 100

祝100号!



特集：都市のインフラ

人がまちに
やってくる

When The Someone Go Marching In



特集：都市のインフラ

人がまちにやってくる

When The Someone Go Marching In

GO まち ING — 西成

あなたにとって、西成はどんなまちですか。これは、『なび』を通じて折々に触れてきた一つの問いです。2年前にスタートした特集「都市のインフラ」では、どんな？を探るため、都市における営為を、その現場や仕組みから掘り下げてきました。

意外と知らなかった自分たちのごみの行方を追いかけたり、身近な医療や福祉の実態をレポートしたり、まちの動きを捉え直してきました。子どもの遊び場や、音楽や喫茶などの文化を通じた居場所、高齢化する在日コリアンの支え合いなど、まちの人たちの取り組みにも触れ、西成と向き合いながら記事を重ねてきました。

通じて得たものは何か。特集の最後は一歩立ち止まり、私たちにとっての西成について、わいわいとナイスな仲間たちが語り合います。若者たちとこのまちのちよつと先を目指して、捉え直しのスタートです。

1 地域との接点

安田…まずは自己紹介がわりに、西成との縁は？

鰻目…西成で生まれて育って、高校を卒業すると一般企業に就職しました。でも、あまりそりがあわず、学校の先生に相談すると、地元の障害者会館を紹介してもらい働くことになりました。そこから老人会の事務局や、コミュニティカフェの運営などの仕事を任されて、縁あつてなのか高齢者に関わる仕事をしています。

西田…ばくも西成区で生まれて、高校卒業後は就職がなかなか決まらず、日雇で現場仕事をしていました。解放運動一家のつながりもあつて、地域の人の声をかけてもらい、就労支援の仕事をすることになりました。その後、西成でも若者の就労支援をできへんかなと思って、戻ってきました。プライベートでもフォロワーしながら若者たちと関係をつくっています。

辻…同じく生まれも育ちも西成。大学卒業後は就職氷河期時代で、そのときちょうど西成人権協会でやっていて、就職困難者の予備校事業に通ってみようと思い、修了後も西成人権文化

センターでアルバイトをする縁をいただきました。そこから地域を意識して関わるようになり、少しずつ人にも出会い、青年部でもお世話になりました。

竹中…ここ最近ではハウジングの仕事をやっています。ナイスで働くようになって、なんでも屋さんのように現場で動いて、いろんな人にも出会いました。レストラン事業やおふろ組合、おしぼり工場なども。今は、いわゆる収益事業だけでなく、関係づくりを豊かにすることを事業として捉えると、どんな展開ができるか考えています。

田岡…ナイスで働いて7年。就労支援をはじめ、最近ではハウジングなどにも関わっています。ばくの場合、地域の臨場感を持つてないけれど、人の話を聞きながら、いろんな現場を見聞きし、まとめていくことを仕事にしているのかな。そんな立場だからこそ提案できる新しい事業を組んで、仕事づくりをしています。

富永…関東出身なのですが、大学で所属していた研究室から、西成で学んでこいと送り込まれてきました。それがこのまちとの出会いです。建築を学んでいるので、建物の更新に





関心があります。あと、いろんな状況を受け入れるまじの多様性を感じているので、それが今後どう受け継がれるのか、福祉の取り組みにも関わりながら研究者として探っています。

柳本…大

学で勉強して、いくつもの地域を見てきた中でも、西成からはいろんな刺激を受けています。地域の建物をコンバージョンしながら、働くことや、暮らすこと、集うことなど、いくつかの機能を組み合わせることができると、建物からまちをもっと面白くできるのではと思って、いまも地域にお世話になりながら勉強をしています。

安田…今日は、20代30代の若い人たちと、もつとまちについて語りたいなあと、呼びかけました。まずはナイスや部落解放同盟西成支部(以下、西成支部)などまちで仕事をする、学生や研究者などまちを探る人から、徐々に広がっていきたくです。そん

2 若者の事情

なほくは、大学ではまちづくりを学んでいて、ブノペンに行ったことをきっかけに、外から日本を見ていろんな疑問がわいてきました。自分がまちでできることはなんだろうって。そして、大学卒業後も悶々としながら建設会社で働いていたけれど、一念発起して知り合いを通じて半年前にナイスでチャレンジすることになりました。みんながそつと持っているまちへの想いを、ぼく自身も整理しながら、考えを広げていきたいと思います。

安田…みんなの経緯はバラバラ。でも、仕事がちとの縁になっているというのは共通していますね。

辻…ぼくと、西田くん、緩目くんは、仕事とともに西成支部員としても関わっていて、縁という意味では深いと思う。でも地域と関わっていて、運動なのか？仕事なのか？その線引きが難しい。どこまでやっていいの？ゴールもハッキリとはないし、給料がつく、つかないの違いも、中々のみこめないよね。

西田…そう、漠然としているから、特に若者と運動を結びつけるのはすごく難しいと思う。自分が西成支部の青年部に入って、次世代の若者に伝えるのにやったのが、地域での仕事探し。ただ上から何なのか分かんず言われたままやるより、若者が身近な場所で活躍できるお手伝いがいいかなと考えました。緩目…とにかく、地域と関係する仕事や運動をしていかなかったら、まちづくりとかには関わっていない

なかつたかな。ぼくの場合、中学校を出たあとは地域から離れてしまっているのではなさ。例えばちよつとしたボランティアで地域に入ってくる人は、まれなんじゃないかな。

富永…ボランティアは理想的な響きだけど、現実的には少ないかもしれないね。言われてやるとか、周りがやっているからやる、というのはその場限りになりがちです。続かないと地域との関わりは生まれない。

佐々木…あと時代背景もあるかな。学生運動の経験がある世代との違い。社会の課題を共有して、変えていくんだと前へ向かう力があつた。今の若者たちは、大きな声を上げ寄り集まって何かをやるということが感覚的にできないんだと思います。

西田…課題じゃなくて、楽しみや喜びなどの実感で引く張ることが若者には必要なのかな。すごくシンプルなのですが、みんなで積み立てて北海道旅行をしました。自分たちでお金も時間も出し合って、サークルみたいな動きをつくれなかなと思つて。その動きが地域全体の人の巡りを良くし、解決型ではなくて回復力みたいなものがつければいいんじゃないかな。

田岡…なるほどね。楽しい実感と、あと安心感もあるのかな。出て行っても切らないのは大事。若者だと、仕事でも友達関係でも、なんか違うなと思つたら、すぐ出ていきがち。

佐々木…どんな若い人たちの意見を取り入れる時期だと感じています。

西田…若い人たちが、わずかな投資でチャレンジできるまちになればいいね。

富永…まちでは、若者の取り合いが始まっているのかなと思います。

西田…キャリアを育てながら、若者がステップアップしていける仕事と住まいを結びつけるのいいのかな。

佐々木…そう、仕事のテーマパーク化が進んでいると思つていて、面白くなければやめてしまいくるが身につかない。生きていく力を育てる意味で持続する意思は必要かもね。

田岡…その意味での仕事と住まいのセット化。「社会の住宅」というのがキーワードになるね。

竹中…支部のいいところを伸ばしながら、新しい社会派を育てながら事業化していくと、西成らしく変わっていくと思う。

安田…自信を持ってキミも住んでみないか！と声をかけられるようなまちになればいいですね。

—今回はスタート地点として、自分たちのまち、若者にとつてのまちをキーワードに語り合いました。ご覧のとおり、話は全然まとまっています。でも、何か兆しは感じられたのではないのでしょうか。課題を見つけてすぐに答えを求める対処療法ではなく、まち全体の血の巡りをよくするような若い力の循環を生み出す場になれば。そんな想いで、新しい世代の動きをこの西成から発信していければと思います。

(記録…平川隆啓)

3 これからの脱運動

田岡…運動ってマッチョ。失敗したことを簡単には失敗と言えない。なので、上の人たちが任せたとはいながらも、次の世代に任せられない。そして、若い人たちは、自ら考えて動くことがなかなか覚えられなくなっているのかな。

緩目…そうだね。あと、運動でまとまっていたころは地域に住むベースがあたりまえだったけど、これから若い人たちに住み続けたり、新たに住み始めてもらうのには、ちよつと違うなという感覚がある気がします。

辻…あと、お金の感覚も違うよね。

緩目…タダだと利用するけど、お金を取るの来ない。同和対策事業でお金があつた時代、課題解決型でお金がついて無料で利用できる施設などが広がったときの感覚があると思う。

佐々木…タダという文化、これは生活保護にもつながると思う。

緩目…タダから有料に。ようやくタダの感覚から、お金を払ってもいいよという感覚が、つき始めているのかな。同和対策事業が終わって10年のタイムラグなんだけどもね。

佐々木…何でもかんでも無料はだめ。自らの存在意義として、あるいは、自己投資としてお金を払う行為は育てていきたいと思つています。

田岡…ナイスの組織経営ともつながる話のかな。原点の小さな組織として動いているときは新

4 住むことと働くこと

田岡…この地域は、ずっと住んでいる人は高齢者が多い。外から入ってくるのはどんな人なのかな？

辻…生活保護一色になりすぎているついでに巷の話もきいたけど、若い人が増えるようなことも考えないと。

田岡…仕事がないと、まちには来ないよね。その点で、ナイスは住まいの多様性にはまだ応えてきている。それに仕事がつけばいいのかな。

緩目…若い人たちは、年収の低さが問題になっている。住まいにかけられるお金は限られるし。

竹中…その格差も関連して、都市の状況としては、土地の値段がマダラ上に分布しはじめていて。道を挟んで何倍にも差がつくような地域が出た。上があるところ下がるところにはつきりと分かれ、まちの価値に格差が生まれ、住まいにも影響し始めている。

柳本…まちの価値としては、今までと違う視点があるところもありですね。音楽が集まったり、アートが集まったり、面白い人が集まるとまちのブランド化の可能性が開けるのかなと思います。

[田岡秀明]小笠原で起きたM8以上の地震に品川駅で遭遇。新幹線の安全点検のため駅で足止め。京都駅着が午前までに。マグマが沸々と...



サウスオブミナミ

特集と連動！ 西成のまち歩き編

自分たちの街は、どんな見方ができるか？ いろんな角度から捉えようと、小さな発見を記録してきたサウスオブミナミ。今回は、おなじみ楽塾のメンバーが大学生とまちを歩き、生活者の視点で気づきを集めてみました。

商店街アーケード



薄暗いけど、日に焼けた天井から透過された光は、どこかノスタルジー。そんな場所で音楽好きが集まりだしています。

ドラ付き地蔵



街中にドラの音が響く！？音のある風景は印象的。地蔵盆のときに打ち鳴らすのかな。

駐車場のソファ



緑のカーテンに、皮のソファ。殺風景になりがちな駐車場も、ちょっと遊び心があると街の顔に！

角の八百屋さん



お野菜に、果物に、いろいろどりの商品が軒先に並ぶと、おしゃべりにも花が咲きそう。今晚のおかずは何か。

ブロック塀の路地



直線のラインが道とともに奥までびる。コンクリートの塀に挟まれた細い道は、巨大迷路のよう。

津守駅

渡り廊下のある文化住宅



暮らしがのぞく開放的なエントランスは文化住宅ならではの。昨今の空き家問題も、見方を変えるとまだまだ可能性が？

使われていない井戸



ふたで閉ざされてどれほど経つのだろう。この一帯は以前は耕地だったから、井戸がちらほらと見つかります。

ネコ密集と井戸



ネコがたくさん集まる路地。そこには、小さな井戸もありました。街中のちょっとしたオアシス。

萩之新駅

植栽のあふれ出し



道が緑に覆われて。日本の街は通りの文化。花壇も、お祭りも、ご近所づきあいも、みな道が舞台に。

公園でテーブル出して、おっちゃん青空将棋



天気の良いと、外で過ごしたくなる。のんびり気持ちよく、みんなで使える公園に。

子どもが遊ぶ道路



狭い道だけど、子どもたちにとっては格好の遊び場。はしゃぎ声が聞こえてくるのは、きっとやさしい街のしるし。

ナイスな仲間たち

VOL.15 西成支部青年部



はじめまして！これからも青年部をよろしく願います！

2014年12月から新しく西成支部青年部長に就任した「山村裕太」です。
今回は、みなさんへのご挨拶とこれからの青年部についてメッセージを発信させていただきます。

西成支部青年部は解放運動や西成地域の歴史があり、多くの先輩達が西成支部青年部としてこの西成の地で活動を行ってきました。正直言いますと、社会変化の中で、一時は青年が非常に少ない時期もありました。しかし、就職など日々の相談の中からできたつながりで今再び青年が集まりだしています。

僕は、先輩方が残してきた運動の歴史や経験を継承し、今後の活動に活かしていきたいと思っています。

柱は「若者のつながりづくり」です。様々な理由で困難を抱える若者を相談支援で「発見」し、スポーツ交流や地域のイベント等で「親睦」を深め、学習会で地域や人権を「学び」ます。そういった活動の中で「若者のつながり」を創っていきます。青年部が自然と若者の居場所になっていった、そんな「青年部」をつくっていきます。

西成支部青年部長 山村裕太



西成支部青年部
〒557-0025
西成区長橋3-7-28 ブランコート2階
電話：06-6561-8800 担当：西田
E-MAIL：nishida0429@yahoo.co.jp



【飯田沙保里】なび100号おめでとうございます。こういった形で参加させていただき、作りながら西成のことを勉強させていただきました。これからも楽しみにしています。

【高橋静香】地域の情報誌が100号を迎えるということ、ほんとうに凄いです。「なび」のおかげで、西成が身近に愛すべき場所になりました。ありがとうございました！

い湯かげん

住民投票忘備録

大阪市の住民投票が終わって、ボクの感想を徒然に。

大阪市が買収される寸前まで行ったという意味で「ひゃつとした」。「憲法改正の国民投票の予行演習」にならずにすんだという意味で「ほつとした」。「勝者なき住民投票」がやっと終わったという意味で「つかれた」。民主党がゼロ議席になったという意味で「あきれた」。

橋下さんの敗北宣言は「さすが」、それだけで良いでしょう。つられるように天王寺の水谷区長も辞表を出すコメントしたのは、まだ三〇歳になったばかりのこの若者はすごいと思って

ただだけに「惜しい」。西成特区政府担当特別顧問の鈴木亘さんも、おそらく辞任されるだろうが、この人の功績は「大きい」が、欲を言うなら「都構想賛成会見」しなかったら良かったのに。

民主党の出直し宣言は時間がかかるようだが、期待もしていないが「じれったい」。陰ながら橋下さんに肩入れした安倍首相がノーコメントなのは、何だか「見苦しい」。共産党が「党派を超えたすごい闘いだ」と万歳なのは、「ちよつと赤面」。それにしても、賛成リードの票数で「反対確定」のテロップを出したNHKには「たまげた」。

最終盤「西成をなくす」との怪ビラを蒔いたのは、大阪維新本部かはたまた西成区の辻淳子市議陣営かと疑われているが、未だ真相を発表しないのは「らしくない」。辛坊次郎さんの「高齢者パワーカーが都構想を葬った」かの発言は、ただの「思い込み」。松本人志さんの「たかじんがいたら変わった」発言には、おもわず「なるほど」。賛成が北で、反対が南に分かれた「南北問題」が大阪市にあるとの報道は、ある意味、的を得ていて「うーん」。

「雨降って総合区かたまる」で橋下さんが総合区に賛意を示したのが、住民投票一番の成果なのに、ちよつと自民党が尻込みしていると報じられ「それはだめ」。議長選出で公明党が自民党と一線を画したのは、ノーサイドなんだから当然との言い分は「正論」。「都構想に反対はいらぬい」「二重行政はない」「安易な民営化はダメ」という反対派の主張は、ちやぶ台返しで「せいがない」、

都構想はなくても大阪の改革は続行しなければならない。終盤に出た、大阪市がなくなると「福祉が切り捨てられる」宣伝は、終わってからブーメランするが、こんな常套手段はもう「やめた方がよい」。

まったくのランダムな感想で申し訳ないが、ホント、得るものがなかった住民投票だったというのを申し上げたかった。実は、これで『なび』も一〇〇号に到達。ということは、ボクの「い湯加減」も一〇〇回目、もつと「らしい」ことを書くつもりだったが、それは次号で。はて、次はあるのかな？

（株）ナイス代表取締役
富田一幸



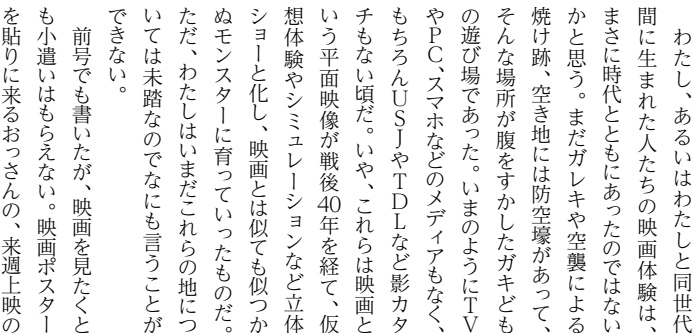
人間のしあわせ、福祉のあり方、そして新しい社会の結びつきを求めて、これからも「い湯かげん」のテーマ探しに出かけます。

【平川隆啓】特集GOまちなぎでまわった、3つのまち。あれこれレポートしましたが、何よりもうまいもんが出てくる出てくる。「なび」も100号。まだまだ開拓せねば。

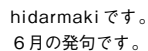


【四井恵介】住民投票が終わって大阪市はひとつの節目を迎えるような感じがしますが、示し合わせたように、なびも100号という大きな節目に。どちらもまだまだ続いていくようです。





『少年と映画』



賛否問うスピーカー止み暑気に入る

プログラムを見て、その映画の中身を空想するのがせてもの楽しみであった。また夏休みに校庭での上映会や、全校生徒が講堂に集められ、年に1、2度上映会が催されたりするとワクワクした。それらのなかで、とくに記憶にある映画は、東映製作の新諸国物語シリーズ『紅孔雀』『笛吹童子』であり、製作会社は不明だが大相撲のヒーローだった『千代の山物語』、宮沢賢治の著作を映画化した『風の又三郎』（これはおそらく戦前製作の映画であったと思う）、『ンちゃん雲に乗る』などであった。とくに『笛吹童子』は54年、『ンちゃん雲に乗る』は55年新東宝製作らしいので、わたしが小学5、6年の時にあたる。

ただ両親の映画好きから、私の見たい作品にかかわりなく、息子をダシに連れて行くことはあった。小2から3年生にかけ、W・ディズニーの作品が連続して道頓堀松竹座で上映され、母に連れられて行く。その1つは『砂漠は生きている』（52年）であり、もう1本は日本初の洋画アニメーション『ピーター・パン』（53年）であった。モノクローム画面ばかりを見てきたわたしにとって共に初めて見るカラーフィルムだった。その美しさとイリュージョンにはびびくりした。砂漠のサボ

テンや、ピーター・パンに憧れ、毎日ピーターの絵を描いた。そして妖精ティンカー・ベルに恋をした。蛇足ながら現在定例歌舞伎を公演する松竹座は、もともと映画専用館であった。

東宝の『ゴジラ(54年)』『ゴジラの逆襲(55年)』、『空の大怪獣ランド(56年)』、『地球防衛軍(57年)』などは子どもたちを空想の世界にひっぱり、その後の新東宝が製作した『明治天皇と日露戦争(57年)』では、新世界の超満員映画館で立ち見だった。親父が連れてくれたこれらの映画は、当時「特撮」などといわれ、今ならCGにあたる技術革新だが、特撮には職人の温かな手作り感があつた。映画の作り手たちのサービスと、映画を見る観客の作り手に対する敬意というか共感が根底に息づいていた。その新しい技術と観客を楽しませる映像の強烈さと新奇さが網膜に焼きついている。

よそのおっさんにひつつき、そのおっさんの息子みたいな顔つきをし無銭で館内に入り込んだり、母親の財布から金を盗み『ぼくの叔父さん』(58年)や、学校を休んで『太陽がいっぱい』(60年)などのフランス映画を見たりした。

数年前の「なび」にも既報したが、高校の課外授業として邦画作品を観賞することになった。当日、わたし

は「クレオパトラ」扮するエリザベス・テーラーの豊満な肉体が見たくて授業をスルーし、隠れて隣館のアポロ大劇場に移動した。暗闇で隣の男性がわたしをチラチラ横見するので見返してみると、なんとまあ教頭であつた。わたしはそれ以来教頭に親しみを覚え、廊下などで教頭に会うとてれくさそうに目礼してくれた。教頭とわたしだけが知る共犯関係であつた。わたしの映画にまつわるエピソードは尽きないのである。

少年時代、とりわけ熱狂させたのは東映時代劇で、あこがれの映画そのものとして輝いていた。勧善懲悪、歌舞伎的様式美、それにスター第一主義を看板に、男性や子どもたちをターゲットとし、東映が映画業界のトップを寡占していた。東映初期の時代劇の作品名なら大体覚えていくくらいだが、東宝が製作した黒澤監督の『七人の侍』（54年）をその数年後コマシルバーで初見し、スターが要件でないこと、殺陣の凄絶さ、社会的背景のリアルな描写など、それらは東映時代劇に皆無なもので、わたしは、この映画一本で東映時代劇を卒業することになってしまった（この稿つづ）。

h i d a r i m a k i

hidari maki



今月の花：あじさい

花言葉「移り気」「浮気」
「辛抱強い愛情」

紫陽花は、「藍色が集めたもの」を意味する「あづさい(集真藍)」が語源です。

最近見かけなくなっていたおじさんが、昨日お店にきました。「ひさしぶり、昨日刑務所から出てきてん」と一言。「何、やつたん」、「自転車どろぼうで前科あったから」と！普通の町では考えられない会話に自分もおどろきます。このまちに、なれたのかな・・染まったのかな・・。

(ななばひとみ)



ピースの育ての母の赤井まゆみです。ピースがお喋りしたい事や思っている事を、これからたくさん感じ取って、みなさんにお伝えしたいと思っています。

『もーいいかい?』

朝、おはようと目覚めたら
お父さんとかくれんぼ。
新聞読んでたお父さんミーつけ!
お散歩行こうって
おねだりしたよ。

昼、お腹が空いたので
お母さんとかくれんぼ。
お料理したお母さんミーつけ!
ご飯ちよーだいって
おねだりしたよ。

夜、お喋りしようと
お姉ちゃんとかくれんぼ。
お風呂上がりのお姉ちゃん
ミーつけ!

ガールズトークで盛りあがったよ。
明日もしようねかくれんぼ!

もーいいかい?
まーだよ!!!
もーいいかい?
もーいいワンワン!



赤井まゆみ

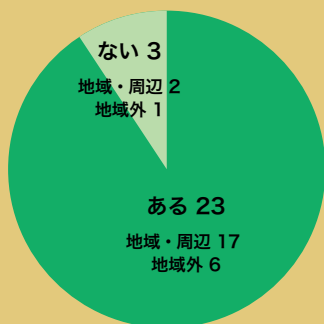


「なび」ご愛読のみなさまへ！

100号、8年6ヶ月の感謝

「なび」は2007年1月に創刊し、本号で100号を迎えました。8年6ヶ月の長きにわたるご愛読に感謝いたします。読者の静かな応援のを感じつつ、あらたな「なび」へのこころざしをたずさえ、いちど読者からご意見をいただこうと考えたのが4月号で同封したアンケートで、回答総数は26票でした。ご報告をさせていただきます。こころよくご回答いただいた方々、そして手にとって読んでくださったみなさまに、お礼を申し上げます。ありがとうございます。(編集長)

2. 掲載記事や、テーマに興味がありますか。

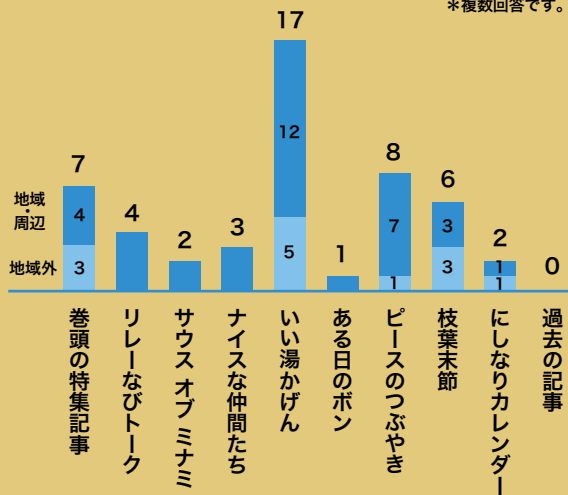


1. これまでの「なび」の装丁や編集はいかがでしたか。

よかった	地域外 6	地域・周辺 13	19
普通	1	6	7
よくない	0		

3. お気に入りの記事や定番コーナーはありますか。

*複数回答です。



読者のメッセージ！

100号おめでとうございます。編集スタッフが若返り、視点へのやわらかさが魅力ですが、オールドファンとしては「いい湯かげん」と「枝葉末節」の骨っぽさが好きです。ますますの前進を!!

100号おめでとうございます。さまざまな世代の方が記事を書かれていて、いつも素晴らしいなあと感じています。これからも、西成周辺の街づくりにまい進されることを願っております。どうぞがんばってください。

本誌に子どもの写真を載せてほしい。

西成の歴史(※なび記事内容への要望)

写真も記事も「目線」を大切にされていることに共感しています。これからも自由!

表紙が個性的で面白そうと思わせる。時事なページはとても勉強になります。

いつも楽しみにしています。

はじめはよかったが、ある号から急に内容が変わり、面白くなった。

発刊100号おめでとうございます。時の流れ、荒れる世情の中にあつて、常に冷静にホットな情報の伝達、有難く嬉しいことです。益々のご隆盛を心から祈念申し上げます。

毎月中身の濃い内容で興味深く読んでいます。地域の方の生き生きした声がそのまま載ってる感じが大好きです。気持ちがこもった本だと思います。

これからもよろしく! うら面の記事(※カレンダー)はすでに終了しているものもあります(※手もとに届いた時)

※回答者の記事をそのまま掲載しました。

あとがき

なびが6月号で100号を迎えました。なびご愛読の皆様には、この場をお借りしてお礼申し上げます。また、4月号ではアンケートにご協力していただき本当にありがとうございました。これからもなびの応援をよろしくお願いいたします。

(編集長)

なび 6月号 (vol.100)
発行日: 2015年6月1日(創刊日: 2007年1月1日)
発行: 株式会社ナイス
発行人: 代表取締役 富田一幸
印刷: 有限会社前山企広
住所: 大阪市西成区長橋3-6-33 電話: 06-6563-1156
E-mail: info@nice.ne.jp
url: http://www.nice.ne.jp/

編集長: 佐々木敏明
編集: 田岡秀男、平川隆啓、四井恵介、飯田沙保里
イラスト: hidarimaki
デザイン: 高橋静香

表紙の写真: 「なびのスタッフたち(西成のまちを背景に)」